

介護事故の最大の原因

設備・用具などの施設環境リスク対策

－消耗リスクから欠陥製品リスクまで－

介護事故の原因は、利用者側の原因・介護職側の原因・介護環境の原因の3種類に分けて分析します。この3種類の原因の中で、大きな割合を占めているのが介護環境の原因です。例えば、移乗介助のミスで利用者を転倒させると、事故を起こした職員は職員側のミスばかり考えて、「安全に移乗介助ができる環境が整っていたのか？」とは考えません。事故原因を分析してみると、介護事故の8割に何らかの介護環境の原因が関わっていることが分かります。ヒヤリハットや事故の分析から、環境リスクを改善すれば、ミスも防止も減らすことができるのです。本セミナーでは、環境リスクの種類を整理しその改善方法をご説明します。

セミナーの概要

《1》事故原因分析方法と環境リスクの種類

- ・介護事故の原因分析の方法
- ・3種類の環境リスクとは？

《2》環境リスクの把握方法

- ・危険箇所総点検活動
- ・ヒヤリハットの原因分析

《3》消耗リスクへの対応

- ・手入れをしなければブレーキは緩む
- ・車椅子点検のマニュアル化

《4》陳腐化リスクへの対応

- ・古い製品は安全性が低い
- ・ヒヤリハットの環境リスク分析

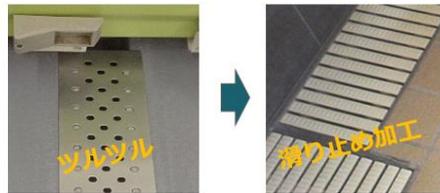
《5》製品欠陥リスクと製造物責任

- ・製造物責任法の製品欠陥とは？
- ・使いにくい操作しにくい危険の現れ
- ・製品事故の対応とメーカーへの改善要求

《5》安全な建物・設備・用具のポイント

● 多発する陳腐化リスクによる事故

古い製品は安全性も低い
→安全性の高い新しい製品に買い替える



車椅子の固定装置がいつの間にか外れて車椅子ごと後方転倒

S デイサービスでは、車椅子を2台搭載できる大型のワンボックス車を送迎車として使用しています。ある日、送迎時に2台の車椅子を載せて車椅子を固定しました。車椅子下部の金具にフックをかけて固定装置のスイッチを入れ、ワイヤーで車椅子を固定したのです。その後後方の車椅子の利用者を居間で送迎車から降ろし、再び発車した時、前方の車椅子の利用者が車椅子ごと後方に転倒し頭部を打傷してしまいました。
調べてみると車椅子の固定装置のスイッチが解除されワイヤーが緩み、発車した弾みで後ろに転倒したのでした。しかし、固定装置のスイッチは発車した時確認したはず。施設に戻り詳しく調べてみた結果、一人目の車椅子利用者を降ろした時、職員の足がスイッチに触れてしまいスイッチが解除になったのだと推測されました。早速職員は横向きで足に触れやすいスイッチにカバーを付けて、触れないよう工夫しました。



安全介護セミナー開催要領

- 開催日時: 4月14日 13:30~15:00 (4月10日締め切り)
- 主催: 株式会社安全な介護
- 講師: 株式会社安全な介護 代表 山田滋
- 受講料: 1施設・事業所 (PC3台まで) 5,500円 (税込)
- 受講方法: Zoomによるオンライン受講
- 提供資料: テキスト (手持ち資料) ・お役立ちツール
- 申し込み方法: 下記URLからお申し込みいただき、所定の口座に受講料をお振込みください。

<http://tiny.cc/bibuwz>

※安全な介護の顧問先法人は無料ですので申込書にチェックしてください

講師プロフィール

山田 滋 早稲田大学法学部卒業と同時に現あいおいニッセイ同和損害保険入社。2006年7月よりインターリスク総研主席コンサルタント、2013年5月末あいおいニッセイ同和損保を退社。2014年4月より現職。高齢者施設や介護事業者と取り組み、現場で積み上げた実践に基づくリスクマネジメントの方法論は、「わかりやすく実践的」と好評。各種団体や施設の要請により年間150回のセミナーをこなす。

セミナーに関するお問い合わせは

株式会社安全な介護 受付担当 澤田

mail:soudan@nanasha.co.jp TEL:03-5995-2275